

初心者シリーズ

プレスリリース

誤字脱字の訂正

訂正リリースの書き方



目次

1. はじめに
2. プレスリリースとは
3. 誤字脱字とは
4. 誤字脱字を防ぐ9つのコツ
5. 修正／訂正



はじめに

ビジネス文書における誤字脱字を防ぐ 9つのコツと対処法

ビジネス文書における誤字脱字は致命的なミスとなりうるため、完全な撲滅は難しいものの、工夫で可能な限り防ぐことができます。

本資料では、プレスリリースを含むビジネス文書全般に役立つ、誤字脱字を防ぐ9つのコツと、ミス発生時の適切な対処法を紹介します。



広報・PRで欠かせない、基礎・基本・代表的な活動

企業・団体のニュースを発表

新商品・新サービス発表、人事・組織変更、社会的活動などの企業動向、企業・団体が自らに関するニュース（新しい情報）をテレビ・新聞・雑誌・ニュースサイト等のメディアに向けて広く発表する「公式文書」。広報活動の代表的な手法（報道発表資料と呼ぶことも）。

メディアのニュース素材（ネタ）

関心あるプレスリリースをニュースの素材（ネタ）にし、テレビ・新聞・雑誌・ニュースサイト等に取り上げ、情報発信を行う。



誤字脱字とは

誤って使った別の字、書き落とした文字、文の途中で抜けている文字などの総称。

誤字

「こんにち**は**」 → 「こんにち**わ**」

||

文字が誤っている

脱字

「**こん**にちは」 → 「**こ**にちは」

||

「ん」が抜けている

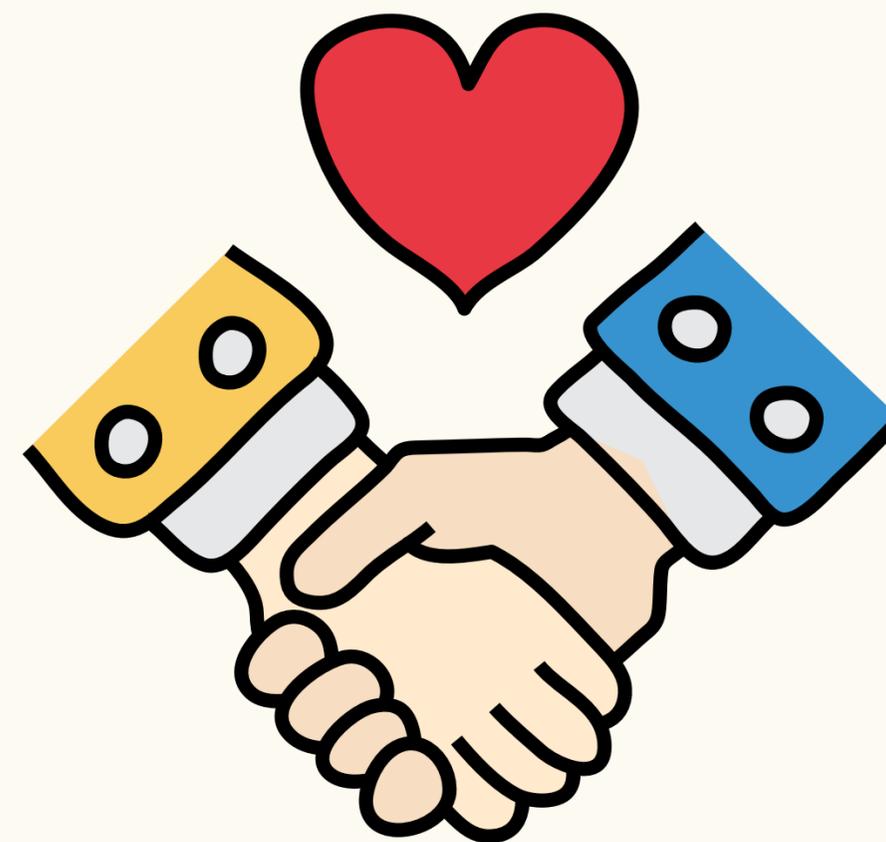
誤字脱字がないことがビジネス文書の基本マナー

正確に情報を伝える上でご法度

広報業務の中でも、プレスリリースは特に重要です。メディアや関係者へ企業の公式情報を伝える文書であるため、正確性が求められる。よって、誤字脱字はご法度。

品質・評価・信頼・信用が問われる

質の低い文書は誤解を招いたり、マナー違反とみなされたりする可能性があり、作成者（特に企業が作成するプレスリリースの場合は企業自体）の評価や信頼を損なう恐れがある。



すなわち

広報活動がかえって悪い心象に繋がる可能性も…

誤字脱字を防ぐ9つのコツ

1

間違っている前提のマインド

- ✓誤字脱字に繋がるもとは
「変換ミス」や「打ち間違い」など
- ✓原稿チェック時は
「間違いがある」前提で目を通す
- ✓1つも直すべき箇所が
見つからなかった時こそ疑う気持ちで

2

辞書に登録する

- ✓高い使用頻度の言葉・固有名詞、
間違いがちな漢字はPCの辞書に登録を
- ✓辞書登録で変換ミスなどを未然に防ぎ、
確実に正しい表記に変換出来る

誤字脱字を防ぐ9つのコツ

3

ツールを使う

✓ツールを使うことで時間短縮に。
自分では気付かなかった誤字脱字も
洗い出すことが出来るので上手に活用

✓全ての誤字脱字は見つけれないので、
ツールに頼りすぎない

4

時間をおいて確認する

✓書き終えてすぐに読み返しをしても、
記憶が新しいうちはミスに気付けない

✓夜に書きあげたら一夜文章を寝かせる等
確認までに少し時間をおく

✓新鮮な頭と視点で読み返すと
当初は気付かなかった誤りも明るみに

誤字脱字を防ぐ9つのコツ

5

項目ごとに確認する

- ✓一度に全てチェックするのではなく、「人名／地名」「日付」など確認項目を分ける
- ✓意味を理解しようと読み込みすぎると、誤字脱字を無意識に頭の中で正しい表記に変換をして読み進めてしまうので要注意
- ✓「内容」「誤字脱字」のチェックは切り分ける

6

逆から読む

- ✓「文章の意味を理解しようと読み込みすぎる」ことは誤字脱字を見つける上ではおすすりめできない
- ✓文書の末尾から「逆に読む」ことで、事前の情報なし・理解がない状態で文章を読むことができる

誤字脱字を防ぐ9つのコツ

7

声に出して読む

✓黙読だと見落としてしまうミスも、音読だと1文字ずつ見て声に出すため「目&耳」から情報が入ってくる

✓文章のリズムが分かり、他の人が読む時に「この文章はテンポ良く読める文章なのか？」という新しい発見も

8

紙に印刷して読む

✓意外とPCと紙とでは見え方が違う。PC上ではスクロールしながら読み進める際に行を飛ばし、誤字脱字を見落としてしまう可能性が

✓一度紙に出力して、指と目で追いながらの確認を

9

他の人に読んでもらう

- ✓文書を作成した本人がいくら確認をしてもチェックには限界があるので、最後は自分以外の人に協力してもらう
- ✓全く新しい視点で読んでもらった上で誤字脱字のチェックをしてもらう



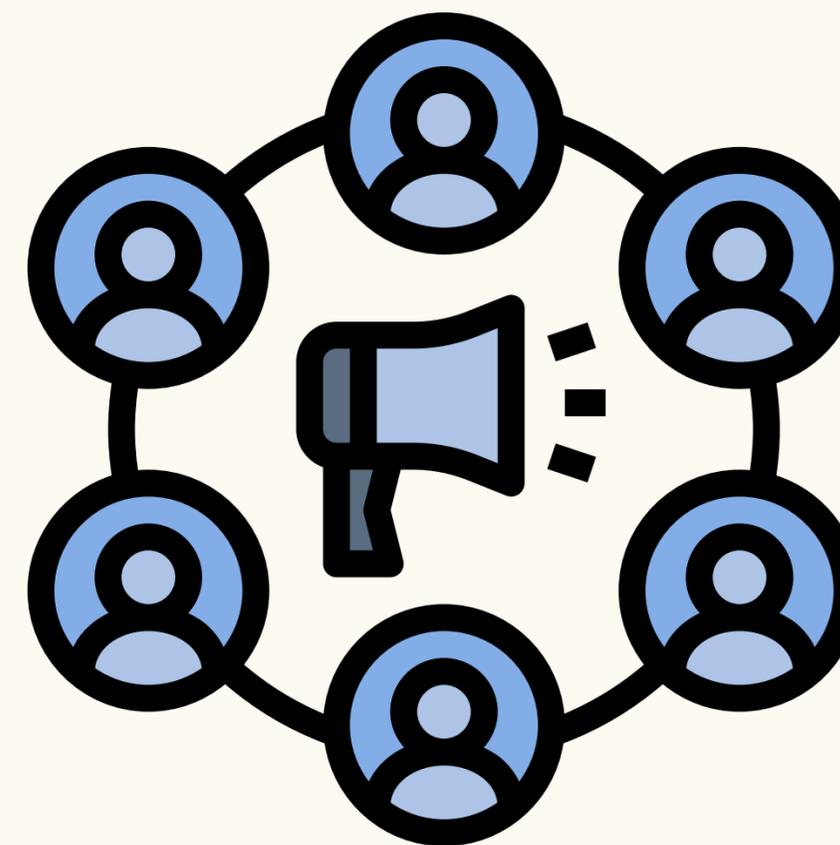
1度世に出した情報は、完全に修正・訂正することはできない

完全に修正・訂正はできない

プレスリリースは、配信と同時に配信先のメディア・記者に送られ、SNS拡散やメディア転載などの可能性が。そのため、一度世に出たら、その情報を完全に修正・訂正することはできない、ということを経営者として認識する必要がある。

配信代行サービスは大抵修正◎

メディアの手元に届けた情報は当然ながら修正不可能。一方、プレスリリース配信サービスを利用した場合、各サービスのWEB上掲載を修正することは大抵可能。



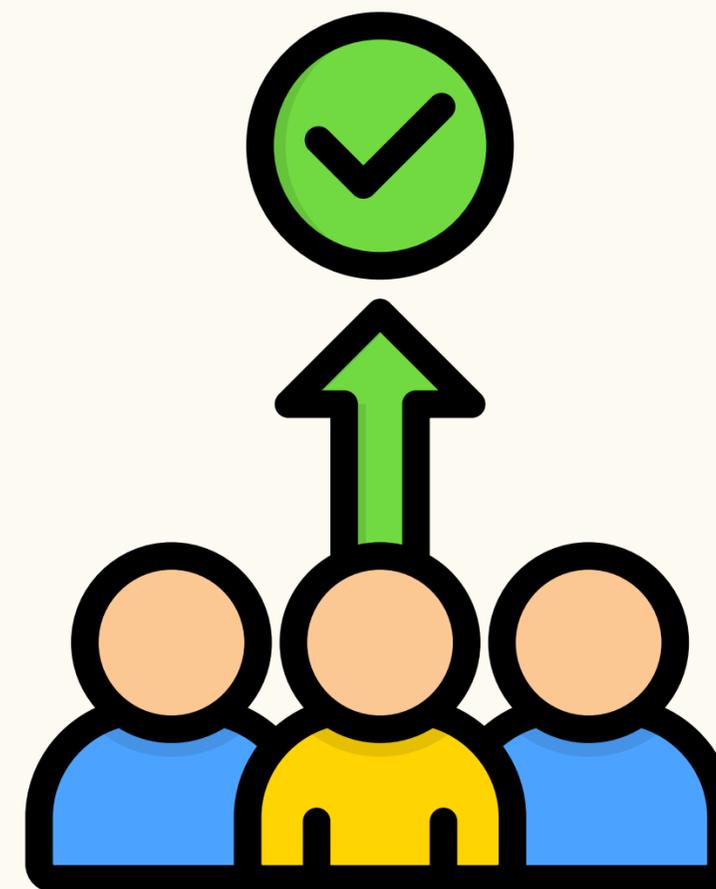
大小、影響度の大きさに応じた適切な対処方法

焦らず、落ち着いて状況を把握

すぐにでも情報を正したい気持ちは理解できるが、焦りは百害あって一利なし。まずは、最小限の対応で済むように修正・訂正が必要な箇所を洗い出して見落とさないか今一度確認し、状況を把握。

影響度を確認

修正・訂正が必要な箇所が確認できたら、次はその影響度を確認。PR代理店・プレスリリース配信サービスを利用している場合、一人で進めずに社内で確認できている情報をまとめ、どのような対応が適切か相談するのがおすすめ。



大小、影響度の大きさに応じた適切な対処方法

影響度・小

誤解が生じる可能性の低いミス
(例：誤字・脱字)

||

ウェブ上の修正のみ

影響度・大

重要事項で、誤解が生じると
大事に至るミス
(例：日時・場所の誤り)

||

訂正リリースを出す



大小で対処が違う理由：「訂正リリース」を届ける＝メディアに「誤った情報を配信した」というお知らせを送ることであることから、少なからず心象が悪くなってしまう可能性があるため

大小、影響度の大きさに応じた適切な対処方法

ウェブの修正

- ✓配信代行サービスの場合、サービス毎の修正方法に沿って修正
- ✓自分で修正をする場合、確認した修正必要箇所を誤りのないように修正し、反映前にダブルチェック
- ✓サービス会社へ依頼する場合、何をどのように修正するのか分かりやすく依頼

訂正リリース

- ✓訂正リリースに決まりがある訳ではないが「訂正が必要であること」「何をどのように訂正するのか」一目で分かるようにしましょう
- ✓訂正リリースは、訂正が必要なプレスリリースを送った全メディアが対象
- ✓訂正リリースを送ったからといって、修正されるとは限らない。適宜直接メディアへ連絡を取ることも手段の一つ

お問い合わせ

個別の無料相談

「興味はあるけど、もっと詳しく知りたいな…」
「これから広報活動するにあたり何をしたらいい？」など

以下連絡先からお気軽にお問い合わせください。

Tel : 03-5363-4866

Email : support@atpress.ne.jp

